

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

トキワツユクサ



学名 *Tradescantia fluminensis*

標準和名 ノハカタカラクサ



白やピンク斑入りや、葉の裏が紫色のものなど、多数の園芸品種が作られ様々な呼び名で販売されていますが、ここではまとめて三浦半島でよく呼ばれているトキワツユクサとします。南アメリカ地域原産で、植え込み等の地際の緑化用に全国各地に戦前から導入されてきました。一年中緑で地面を覆い、かわいらしい白い花を咲かせることから花壇や庭

先でよく使われます。

結実しない品種が多いですが、地面を這うようにして地下茎がよく伸び、早期に群落を拡大して純群落（コロニー）を作ります。ちぎれた1節の根の無い茎からでも、新たに根を出せるため、定着能力は非常に高いと言えます。伸びた地下茎が敷地外を出たり、投棄された鉢植えの土に地下茎が混ざっていたりして、各地の林床で定着しています。

三浦半島での分布傾向

武山、大楠山、観音崎をはじめ、三浦半島全域の林床で見られます。飛散能力は弱く、茎が伸びる範囲か、山の流水をたどって低標高地に移動するか、人為的な運搬で分布域を広げています。ごく小規模な緑地でも運ばれる機会さえあれば侵入し、猿島や城ヶ島などの飛び地でも定着しています。

園芸店では今でも販売されています。



影響

樹林の林床を覆い、半日陰や水分の不安定な場所でも純群落を形成します。在来種のタチツボスミレやニリンソウが生育していた林床だけでなく、あまり下草のない薄暗い林床までも、トキワツユクサで覆われてしまうのです。

多様な下層植生がなくなると、昆虫をはじめ動物相も貧弱になってきます。また、トキワツユクサのように引っ張ればすぐ切れてしまう強度の低い植物だけになることで、深く根を張る植物に比べ土壌の保持力も低下します。

ただし現在の分布状況は非常に広大なこと、抜こうとしてもすぐちぎれて全てを除去することが難しいことから、在来の林床植生を保全するエリアなどの優先順位をつけ、限られた範囲で数年越しの駆除作業をする必要があります。

競合する在来種



ニリンソウ



ホタルブクロ



ドクダミ



タチツボスミレ

同じような影響をおよぼす植物



重要対策外来種

ツルニチニチソウ

類似する種



トキワツユクサ

外来種



ムラサキツユクサ

外来種



ツユクサ

在来種

ムラサキツユクサは紫色の花で、あまり地を這わずに株が立ち上がることで区別できます。

在来種のツユクサは花の色が青色で、冬季は枯れて無くなります。

駆除の方法

ちぎれた茎からの再生力が旺盛で、1年のみの抜き取りでは駆除できません。範囲を決めて、毎年なるべく地下茎を残さないように抜き取る作業を数年続ける必要があります。植え込みから外へ広がりそうな群落や、群落の端部（拡大する前線の部分）等を優先して取り組むと良いでしょう。

量は多いですが重労働ではないので、個人や子どもたちでも十分取り組める作業です。特に小学生のフィールドワーク等で取り扱いやすく、駆除の成果も参加人数に比例します。抜き取りで一時的には地表が裸地化しても、埋土種子ですぐに在来種が生えてくることが多いですが、もし事前に希少植物がみつかったら一緒に抜いてしまわないように目印をつけましょう。

注意 可燃ゴミへ。

小さな茎の破片からでも再生するので、野積みしたり、粉碎して蒔いたりしてはいけません。

再生可能な最小サイズ



こんなに小さいかけらからも不定根が発生して再生できます。完全な根絶には根気が必要です。

抜き取り前

トキワツユクサが地表を覆っています



抜き取り後

地上部はほぼ無くなりました



3年間 抜き取りを継続

ツワブキやシダ類など在来の林縁植生が回復してきました



事例



かがみ田谷戸 横須賀里山田んぼ倶楽部



吉井貝塚 大塚台小学校



市内の様々な市民団体や小学校で取り組んでいますが、まだまだ多くの箇所で見つかり続けています。